自信を育む指導の在り方
―つながり深まる協調学習を通して―

山口市立阿東中学校

１　研究主題について

本校は、昨年度から研究主題のサブテーマを「－つながり深まる協調学習を通して－」とし、『課題を知る』、『意見を持つ』、『意見を交換する』、『意見を深める』という“つながり”を意識した研究を進めてきている。毎年２学期末に行っている生徒アンケートの結果から、生徒たちの課題であった「話す力」が向上してきたことを実感していたところに、コロナウィルス感染症拡大に伴い、昨年度はソーシャディスタンスを保ちながらの「つながり深まる協調学習」の方法を模索しながら進めることとなった。そのことは生徒アンケート結果にも表れ、「話し合い活動や発表では、自分の考えを述べることができた」の項目の評価が前年度に比べて大幅に下がった学年があった。

今年度は生徒たちに一人一台端末が配備されることと、１１月に本校３年生が美祢市立厚保中学校の３年生と道徳科の遠隔交流授業（新しい学びプロジェクト公開研究会【全国大会】in 美祢）が予定されていたこともあり、この機会をチャンスと捉え、コロナ禍であっても生徒たちの学ぶ意欲や話し合い活動（自分の意見をもち、意見を交換し、意見を深める）をストップさせない ICT の効果的な活用方法を教職員が学ぶ機会を多くもち、自信を育む指導の在り方～つながり深まる協調学習を通して～のテーマのもと、研究していくこととした。

２　研究の取組

（１）研究内容

①生徒の自信を育み（温かい雰囲気、誉める場面を大切にし）、学力を確かなものにするために『意見を持つ』『意見を交換する』『意見を深める』という流れの活動を意図的に仕組む中で、手立てとして“知識構成型ジグソー法”や ICT を活用し授業改善につなげる。

②自由参観週間（６月）

「自信を育む指導の在り方」を視点に参観し、ミニ研修会をもつ。

※参観メモ：生徒の変容やアドバイスを記入する。

③１分間スピーチや生徒会活動を活性化させ、工夫改善を図っていくよう支援する。

④生徒理解のための養護教諭やＳＣによる研修会行う（エピペン＆ＡＥＤ、学級に在籍する生徒の支援の在り方）

（２）研究の実際

月	全体研修（研修職員会議）	月	全体研修（研修職員会議）
4	○エピペン＆ＡＥＤ研修 講師：阿東消防署より ○研究主題・方針の確認	11	○授業研究会（３年道徳科：「足袋の季節」 美祢市立厚保中との遠隔交流授業 ※知識構成型ジグソー法
5	○ICT 研修 「グーグルクロム＆デジタル教科書を使えるようにしよう！」	1	○クロームブック研修 「授業における様々な使用方法を知ろう」 ○校内研修振り返りアンケート実施
6	○自由参観週間	2	○研究のまとめと課題確認
8	○各分掌より（出張の復伝）	3	○次年度研究方針検討

３　研究の成果と今後の課題

今年度は、コロナ禍でのつながり深まる協調学習、特に教職員が ICT の効果的な活用方法を学び探り見出す一年であった。職員室では気軽に ICT の効果的な活用方法を尋ねたり伝えたりする雰囲気があり、生徒たちの学ぶ意欲や話し合い活動をストップさせない ICT の効果的な活用を教職員が一丸となって研究することができた。

特に授業におけるクロームブックのフォームやジャムボードの活用は、家庭においてもタブレット端末に慣れ親しんでいる生徒たちにとっては楽しいと感じることであり、自分の考えを書くことや伝えることに消極的であった生徒が、しっかりと自分の考えを打ち込み、自信をもって発言し、他者の意見を聞いて考えを深めていくなど、学習に対する意欲の変容をも見ることができた。ICT の効果的な活用が学ぶ意欲を高め、自分の考えを打ち込む作業は、自分の考えを素直に表現することへの抵抗感をも軽減させていくことにもつながると感じた。

また３年生の美祢市立厚保中学校との国語科と道徳科の遠隔授業以外にも、２年生は萩市立田万川中学校との数学科遠隔授業を行うなど、小規模校の悩みでもあった限られた人間関係の中での協調学習の解決の糸口を見つけることにもなり、生徒の思考の深まりのみならず、コミュニケーション能力等の社会性を向上させるためにも本校にとっては ICT の活用は効果的であり、今後もこのようなつながりを積極的に取り入れていくべきだと思わされた。

今年度は生徒に一人一台タブレット端末配備ということで、ICT の効果的な活用方法を見出すことに終始してしまい、教員同士の自由参観週間がお互いの授業力向上や生徒理解につながるものとして有効に実施できなかったことが課題である。生徒の学力の定着と向上のためには、まずは「授業ありき」であるので、来年度は今年度の成果である ICT の効果的な活用を生かしつつ、本校の教育目標とリンクした研究内容を精選し、教員相互の授業参観を充実させて授業力向上・生徒理解を深めていく研究を進めていきたい。